

ふれあい

杉山民謡会 会報



NO.34

明けまして

おめでどういいます。

毎年最初に、「時の流れは早いもので・・・。」

と申しておりますが、今年は特にそう思いました。襲名させて頂いたのが平成二十一年。今年十二月で十年となります。あれから十歳の年齢を重ねるのですね。私自身驚いております。さて私事ですが平日は能登で仕事をし、実家で生活をする。そして週末金曜日には仕事が終わると津幡の自宅に向かい長男夫婦と過ごすも、つかの間土曜日、日曜日殆んど民謡関係の予定で充実しており、アツという間に現実の月曜日が始まる。この繰り返しを十年間続けて来たんだなあと振り返っております。思えば色々な事が有りました。

大変だった記憶としては、姉のくも膜下です。2015年5月救急搬送で病院に入り検査を受けたところ、くも膜下と診断されたのです。付き添って行った私は、何が起きたか、この先何が起ころうとしているのか全く分からなく単身赴任で県外にいる姉の旦那さんに連絡をとりました。主治医の先生からは、この病気は三つに分けると一つ目は死、二つ目は障害のある身体となる。三つ目は社会復帰とおっしゃられました。死と隣り合わせの様な説明を受けながらも手術は無事成功し四カ月も経った頃、神様は姉に三つ目の社会

復帰を与えて下さいました。現在は、以前同様(増して?)毎日元気で働けるまでに至っております。

次に嬉しい記憶で二つ。

一つ目は、昨年十二月の大民謡まつり、杉山会発表会と、たて続けに行った舞台発表です。会員の皆様はもちろんの事、地方伴奏先生方、踊りの先生方、吹奏楽の先生方にと、沢山の協力、応援を頂きましてとても感謝致しております。司会の松村玲郎さんに関してはステージに現れただけで会場のお客様が喜びになっておられました。

発表会の内容に関しては総合的に観て、私としても良かったと思います。皆さんの一生懸命さも、観て聴いて充分伝わりました。年内での民謡会最後の発表会となりましたが無事に終えて一段落です。

もう一つは、昨年四月のベルリン公演に明宏会の一員として参加させて頂いた事です。前回のイタリア公演と違って今回は、当会員の森さん、西房姉妹の同行もあり、気持ち的にとても楽しいステージを味わう事となりました。日本の楽器を代表する三味線と民謡(唄)ですが、ベルリン在住の一川先生のお弟子さん達とのコラボ・ステージを繰り広げて参りましたベルリン会員さんに一川先生率いる十名が加わった発表により一層ステージに厚みが付き迫力がありました。

もちろんお客様もベルリンの方々でたくさん入場して頂き、音楽に国境はない、と、肌で実感しました。

金沢に戻り市長表敬訪問の際には、今後ベルリンと金沢の交流に繋がる様にと話さずみしました。西房姉妹は現在もベルリンのお弟子さん達とライン等で情報交換しています。この様な貴重な体験が出来た事は、やりがいと共に大きな糧となります。

十年を振り返ってみました。2019年も現実(いま)を受止めながら出来る事を目標と致しまして皆さんと共に歩んで行きたいと思っております。

本年も、どうぞよろしくお願い致します。

二代目 杉山貞悦



平成最後の年頭にあたり

会員の皆様

明けましておめでとございます。

皆様には善き年をお迎えのことと

お慶びいたします。

昨年一年の世相を表す漢字には「災」が最も多い得票で選ばれた。

理由として、全国的に地震、台風、猛暑などの自然災害やスポーツ界でのパワハラ問題、あおり運転を受けた死亡事故、大学入試での差別採点のような人災を被ったことがらが多く起きていたことから選考されたこととである。

北陸でも、二月の豪雪災害では国道8号線が渋滞となったところへ降り積もる雪により、ついに長時間通行不能となったこと。金沢市内幹線道路でも除雪しても除雪しても降り続く雪に片側一車線の通行帯の確保しかならず大渋滞になり通勤通学にもろに被った。また、九月、十月の台風は直撃ではなかったが、避難勧告が発令されるなど怖い思いもした。自然の脅威に驚くばかりの一年であった。災害で被害を受けられた方々へは心よりお見舞い申しあげる。

なぜか、毎年の巻頭「あいさつ」にこの自然災

害を書かなくてはならない事には、少なからずの不安を抱かざるを得ない。

ところで、当会の一年を表す漢字は何であったらうか。

考えるに、「絆」と「躍」が思い浮かぶ。

十二月に開催した発表会は、前日リハーサルなしというこれまで経験のない方法での実施であった。これを決定し、実現するための練習では本舞台を意識したやり方を行い、少しでも本番に不具合が出ないようにとのものであり、各役員の大きな力とそれを支える会員の協力により成し得たこと。これは「絆」そのものであると思う。

また、もう一つの漢字「躍」である。常に進化し続けている杉山キッズの会員や、安定した実力を付けコンクールでは優秀な成績を収めている会員や、唄以外に新たな部門に挑戦し実現するなど、会員一人ひとりにとっても躍進出来た年と言っても過言ではない。これは、明日の杉山会に明るい光が差し込んできていることと思うのは、私のひいき目であろうか。

ますます高年齢化が進む社会ではあるが、当会としてはキッズの成長を見守りながら会員同士が絆を深め、唄う事に楽しさを求め、一歩一歩ゆっくりでも確実に前に進むこと

が出来るように力を注いでいきたいと思うのである。

さて、今年はどうな年になるのであろうか。昨年の災いを転じての福を招き入れたいものである。

会長 杉山哲明



後継者育成にお手伝い

寺田康子

いな穂支部は、老人ホームの慰問、盆踊り、そして地元林中じよんがらの唄、踊りと後継者育成にお手伝いをしています。

例えば、桜まつり、社会体育大会、町内で盆踊りがあれば町内まで踊りに行きます。

それから地方も地元の有志を募り三味線を中村重晴先生、横笛は西田裁萌先生に教えて頂き平成二十九年度の林中芸能祭でお披露目しました。そして平成三十年の春、公民館の方から子供にも三味線、横笛、太鼓を教えたいと言われ子供達を応募したところ三味線三名、横笛二名、太鼓二名の子供地方が揃いました。地方の先生は三味線が森米子さん、横笛は西田裁萌先生、太鼓は小崎妃登美さんです。森米子さんは子供たちが三味線を弾きやすいように譜面を直されました。

横笛のほうも直されたようです。三人の先生方は、もう一生懸命でした。

子供たちが先生から教わった結果を白山市学習センターで行われた林中芸能祭で私達は林中じよんがらを唄い、子供園の子供達、踊り子の方々も踊り、子供地方も頑張つて奏でてくれました。とても上手でした。

子供地方を、これからのようにして育てていくかが課題です。

芸能祭には、一川先生とお弟子さん、二代目先生、西房唯さんが来て下さり、素晴らしい唄や響きを聞かせてもらい舞台上に華を添えて頂きました。ありがとうございました。



四年生の感性 のびのび民謡教室

小崎妃登美

白山市立松南小学校の四年生に民謡を教える教室に私が参加してから五年目になりました。初代先生、中村さんなど林中の人達と続けてきて十年ほどが経ちました。

そして、今年はいよいよ二代目が参加することになり、しかも私の長男も四年生になりました。私の子供は民謡とは何度か発表会などを見たりして知っていますが、そうでない子

供たちの興味深い顔、特に三味線、尺八、太鼓など楽器は子供たちにとつてなかなか触れ合う機会がない事だと今年実感しました。それは、林中体育館で林中じよんがら踊るまい会による芸能文化祭で披露するために三味線、しの笛、太鼓演奏する子供たちを募集して、来てくれた子供達の中に、四年生の時に民謡教室で興味を持った子がいたからです。私も家族が民謡をやりましたが、高校生の時までは全く興味がなく、太鼓ならやつてもいいと始めてから二十年が経ち、今やつと民謡の唄の良さが感じてきています。そして杉山会の子供達を見てきて子供の頃から民謡の唄を覚える事は、とても心が豊かになる事だと感じます。私は、どうしても大人になるまで興味が出なかつたのだろうと思います。

来年度も、林中じよんがら踊るまい会での子供達に楽器演奏を教えることは続くそうです。また小学校で体験した子供、初体験の子、たくさん興味を持ってくれた子供達に民謡の良さを伝えていきたいです。



民謡の唄を覚える事は、とても心が豊かになる事

どうして大人になるまで興味が出なかったのだろう



民謡を習い始めて四十年

やすらぎ支部 西村 昭

今年民謡を習い始めて四十年となる節目にあたり、発表会に唄う曲を「黒田武士」にしました。この曲は初代杉山貞悦先生が発表会で唄っているのを聞き、詩吟、浪曲入りで変化にとんでいるのに惚れこみ大好きになりました。総合練習のたびに初代先生から何度も注意され、自分の癖を出さない様に練習を重ねました。

プログラムでは40番「黒田武士」をトリで唄うことになりました。

三味線は一川明宏先生、踊りは北川晴勝先生に踊って頂き、舞台に立てた事に感謝です。

私の衣裳ですが紋つき袴を着たのですが、気が付かれた方がいると思いますが、紋つきが夏用の紗（シャ）の着物でした。

「えっ、時節はずれ」と思われたかも知れませんが、この着物は初代杉山先生からの頂きもので一度は着て唄いたいという強い思いから着用になったのです。長年の思いが叶ったのがうれしかったです。

終了後には知り合いの方から大きな花束を頂き、記念の日になりました。



節目に唄う黒田武士 わが夢叶う



発表会を振り返って

常少義孝

発表会的那一天に向けて一生懸命練習をしていたが、発表会二日前から喉に違和感を感じていた。まだ声が出ていたので、大丈夫だと思い、医者にもかからずいたらこれが災いして、前日の朝から声が出ず慌てて耳鼻科に行つて先生に、「明日、発表会があつて唄わないといけないので」と言ったら、それならと点滴をして薬を出してもらい、適切な処置をして頂いたお陰でその日の教室では声は出せないで早めに帰らせてもらい、身体を休めたおかげで本番当日、何とか唄う事が出来ましたが、当日朝はまだ声が出ない状態で、家の人が「唄えないようだったら早めに電話してほしい。見に来る親戚に電話しないと」まで言われていた。

本番前の音合わせでも声はまだよく出なかったが、昼の薬が効いてきたみたいでかろうじて声が出ていたのでホッと思いました。本番が午後で良かったです。



ENJOY

西房 唯

今年で、大学生最後の年でした。四月に五日間ドイツに行きました。初ヨーロッパに上陸して唄つて、叩いて、遊んで、食べて来ました。

五月は青森に行つて、六月は華絵巻に踊り流し、八月は日民少年少女大会で東京へ。そして、九月には郷土民謡大会で初優勝を頂きました。

大勢の人に「おめでとう！」と言ってもらい、凄く嬉しかったです。

十二月は大民謡まつりと当会の「民謡発表会」十二月締めくくりの発表会は、これから始まります。今年も忙しくさせてもらい、日民石川福井連合の事務局次長というビックリな役にまで就かせてもらいました。

二代目先生のお陰です。

これからもご指導よろしくお願いします。

来年の四月からは、幼稚園の先生です。大変な事だらけだと思えますが今までのように楽しく民謡を続けられたらと思います。

民謡も学校も

充実した一年

中田詩織

今年、民謡も学校も充実し、両立出来た一年でした。

春の民謡民舞連合大会では、今までは三味線の曲しか歌って来なかったのですが、今年、尺八の曲「秋田長持唄」に挑戦しました。三味線と違って、自分でもある分、自分で考えて歌うということが難しいと感じました。でも、尺八の唄を本格的に練習したのは初めてだったので、新鮮味があって楽しかったです。

また今年、いろんな大会に出させて頂いて本当にいろんな経験が出来たと思います。一般の部は、少年少女の部よりも参加人数がとても多く、また、入賞も難しい厳しい世界で挑戦することが出来るという事が本当に嬉しい事だと思いました。まだまだ未熟ですが、これからも頑張っていきたいと思えます。

山本菜々子

2018年は、いろんな人が私が歌っているのを見て来てくれました。

大民謡まつりには、学校の先生が見に来ていて学校で会った時に振袖も似合っていたし歌もたいへん上手で、すごく良かったと褒めてくれて恥ずかしかったけど嬉しかったです。

今年、受験生になるけれど民謡も勉強も両立出来るように頑張って賞を、取りたいです。

山本日菜子

私は歌を、歌うのが好きです。

民謡は難しいけど、先生もお姉さん達も優しいので楽しくお稽古しています。大きな舞台で歌うのはとても緊張するけど、終わったらスッキリします。

今度は、一番大きなトロフィーが取れるように頑張ります。

箕崎 仁

四月から中学生になります。今年には二俣いやさかをおぼえてうまくなりたいと思っています。

中学校に入学するといそがしくなって時間がなくなると思いますが負けたくない民謡をつづけていきたいと思っています。



箕崎文音

四月から小学三年生です。

シャンシャンうまどう中うたをまた歌いたいです。きょ年よりもっと上手になりたいなあと思います。





もっ
し
手
に
か
り
た
い
な
あ



杉山民謡会に関わるようになったのは、唯が四歳の時。もう二十年程になります。はじめは、二代目に誘われて一回だけのつもりが、亜美もそのまま入り家族みんなどっぷり杉山民謡会につかっています。そのおかげで体育会系のことしか分からなかったのに、また別の世界を見る事が出来ました。

また、夢の場所NHKホールにも行く事ができ、親子共々いろんな経験をさせて頂いています。この民謡をしている事により子ども達は、いろんな世代の人達と接する事が出来、学校では勉強できない事を学んでいると思います。これは会員の皆様が子ども達を、暖かく見守って頂いているお陰です。保護者のみんな感謝しております。

キッズの教室はとても楽しく、これは二代目の指導のお陰です。これだけ長く習い事をしていけば、辞めたいと思うことがあるのが普通です。でも、子ども達みんな長く続けています。お稽古が楽しいそうです。

唄が上手になる事よりも長く続ける。これが大変な事だと思います。

これからも、ご指導お願いいたします。今後も、どうぞよろしくお願いいたします。



唄が上手になる事よりも長く続ける。

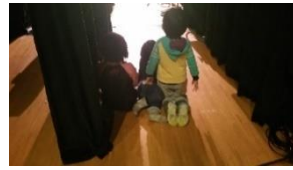


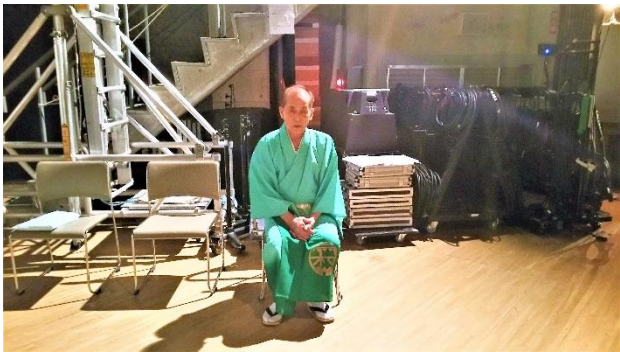
Eye
親の
愛

これが大変な事だと思います。











●●●編集後記●●●

新年明けましておめでとうございませう。
会報「ふれあい」を通じて
感想文を考えることで見えてくること。
カメラを、向けることで感じるこゝろ。
感性が磨かれる。
唄にもいきる。

高齢者の私には、強い光が眩しすぎ
穏やかな光に、目がいきます。
老いの「美」について考えていきたい。
杉山のお年寄りの「魅力」も
アピールしたいと思ひます。

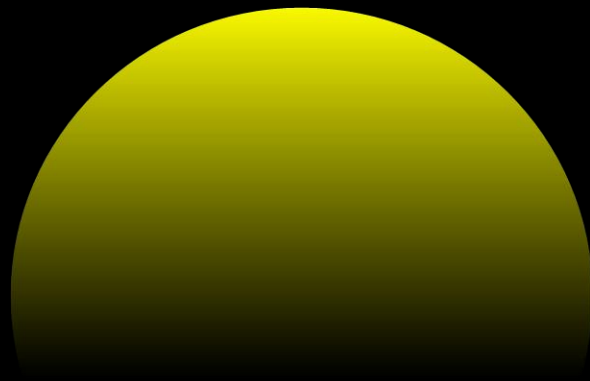
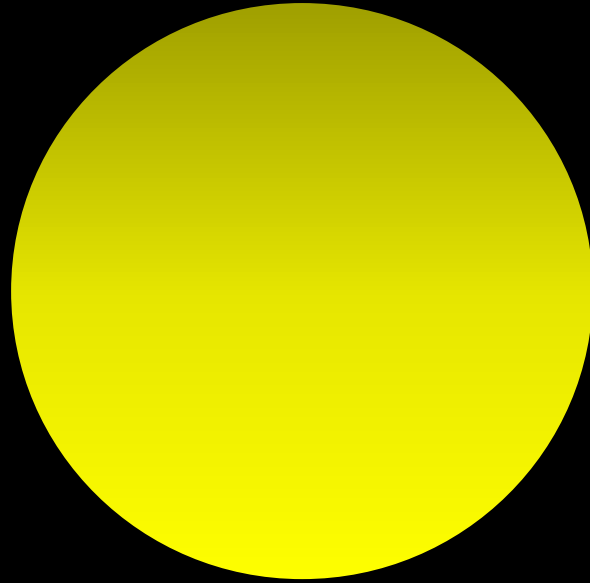
会長の言葉の
キッズの成長を見守りながら
絆を深め、今一度
唄う事の楽しさを実感したいと思ひます。

二代目が襲名してから十年を迎える本年。
心から讃唄したいと思ひます。
本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

へ 広報 へ



杉山民謡会



平成三十一年一月



杉山民謡会ホームページ <http://ma-ma-ma.sakura.ne.jp/>

